



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月8日

上場会社名 株式会社木曽路 上場取引所 東 名
 コード番号 8160 URL <https://www.kisoji.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中川 晃成
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 奥野 慎太郎 TEL 052-872-1811
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	11,991	1.8	△74	—	△59	—	△51	—
2025年3月期第1四半期	11,774	1.1	△288	—	△262	—	△484	—

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 △57百万円 (—%) 2025年3月期第1四半期 △407百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△1.82	—
2025年3月期第1四半期	△17.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	45,390	29,353	64.7
2025年3月期	46,781	30,341	64.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 29,353百万円 2025年3月期 30,341百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	12.00	—	33.00	45.00
2026年3月期	—				
2026年3月期(予想)		15.00	—	15.00	30.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 2025年3月期期末配当金の内訳 普通配当 18円00銭 特別配当 15円00銭

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	24,300	1.9	△250	—	△230	—	△360	—	△12.78
通期	54,000	1.4	3,000	10.8	3,030	10.0	2,040	△35.6	72.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	28,543,889株	2025年3月期	28,543,889株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	383,350株	2025年3月期	383,649株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	28,160,559株	2025年3月期1Q	28,160,598株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、〔添付資料〕3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結損益計算書に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間(2025年4月1日～2025年6月30日)におけるわが国経済は、企業収益の増加に伴う雇用・所得環境などの改善により緩やかな景気回復基調が続いております。一方で、地政学リスクの長期化、原材料価格やエネルギー価格の高止まり、各国の通商政策等の影響を受け、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、賃上げの効果等により個人消費が増加するなど回復基調は継続しているものの、昨年より続く米をはじめとする原材料価格やエネルギー価格の高騰により、引き続き厳しい経営環境となっております。

このような環境の中、当社は主力業態であるしゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」部門において、同業態の強みでもある「ハレの日」需要に応えるべく、店舗での「お食い初め」「一升餅」の社内マイスターによる上質なおもてなしの提供に努めてまいりました。あわせて、お客様ニーズに応える商品として、昨年より新たにお値打ちなお昼の定食(籠盛り定食)・コア商品であるしゃぶしゃぶのコースメニュー(お値打ちコース、1.5倍コース)、さらに、サイドメニューを充実(有機栽培コーヒー、季節のデザートなど)し推奨力を高めることや、回復基調にある企業宴会需要へのアプローチにより来店客数、売上高の増加に努めてまいりました。また、第2の柱として焼肉部門の強化を図るため、自社食肉加工工場を活かした品質の向上及び、木曾路部門の顧客管理手法を活用することにより営業力を強化しました。

費用面においては、客数予想をもとにしたシフト管理の徹底等により人件費をコントロールするとともに、購買・調達の見直しの推進、在庫・ロス管理の徹底による原価低減を図り、また高騰する光熱費に対して使用量の節減、消耗品等の経費見直しを徹底し経費圧縮に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、119億91百万円(前年同期比1.8%増加)、営業損益は74百万円の損失(前年同期実績2億88百万円の損失)、経常損益は59百万円の損失(同2億62百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純損益は51百万円の損失(同4億84百万円の損失)となりました。

なお、働き方改革の一環として株式会社木曾路において、5月7日、8日の2日間、全店一斉休業を実施しました。今後も働き易い魅力ある企業作りにも努めてまいります。

(2) 当四半期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

	前連結会計年度 (2025年3月31日現在)	当第1四半期会計期間 (2025年6月30日現在)	増減
総資産(百万円)	46,781	45,390	△1,391
純資産(百万円)	30,341	29,353	△987
自己資本比率(%)	64.9	64.7	—
1株当たり純資産(円)	1,077.45	1,042.37	△35.08

当第1四半期連結会計期間末の総資産は453億90百万円(前連結会計年度末比13億91百万円の減少)となりました。この主な内訳は、流動資産が181億32百万円、有形固定資産が164億48百万円、無形固定資産が19億13百万円、投資その他の資産が88億95百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、流動資産が13億70百万円の減少となったことによるものであります。

一方、負債合計は160億36百万円(同4億4百万円の減少)となりました。この主な内訳は、流動負債が128億46百万円、固定負債が31億89百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、未払法人税等が3億51百万円の減少となったことによるものです。また、当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は293億53百万円(同9億87百万円の減少)となりました。この主な内訳は資本金が126億48百万円、資本剰余金が124億67百万円、利益剰余金が45億48百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失51百万円の計上、前期末配当金9億29百万円の支払いによるものであります。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は64.7%(前連結会計年度末は64.9%)、1株当たり純資産額は1,042.37円(同1,077.45円)となりました。

(部門別売上高)

部門	事業内容	前第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	前年同期比 増減率
木曾路 部門	しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」	9,127百万円	9,370百万円	2.7%
焼肉部門	特選和牛の「大將軍」 国産牛焼肉の「くいどん」	1,936	1,910	△1.3%
その他 部門	居酒屋	285	300	5.3%
	和食 旬彩処の「鈴のれん」	150	161	7.3%
	その他	355	343	△3.3%
調整額		△81	△95	—
合 計		11,774	11,991	1.8%

(注) 部門別売上高は連結取引高の相殺消去前の数値であります。

木曾路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理「木曾路」業態は、4店舗の改装を行い、当第1四半期連結会計期間末店舗数は126店舗であります。営業面では好評を得ている季節イベントや「北海道まつり」の実施、お値打ちなお昼の定食（籠盛り定食）やコア商品であるしゃぶしゃぶのコースメニュー（お値打ちコース、1.5倍コース）、企業宴会の獲得に努めて参りました。さらに、サイドメニューの充実（有機栽培コーヒー、季節のデザートなど）により来店客数及び客単価の増加に努めてまいりました。また、お食い初めや一升餅などのお子様のお祝い、新入学・就職、結婚や長寿といった慶事・祝事へのアプローチとともに最適のおもてなし・料理を提供してまいりました。

その結果、売上高は93億70百万円（前年同期比 2.7%増加）となりました。

焼肉部門

特選和牛「大將軍」及び国産牛焼肉「くいどん」は、1店舗の出店を行い、当第1四半期連結会計期間末店舗数は48店舗となりました。営業面では、アプリ会員の獲得、また業態認知に向けた販促広告の実施、季節ごとのフェアやご家族向けのイベントを実施し来店客数の増加に努めました。また毎月の29（にく）の日にお値打ちな商品をご用意しご満足いただけるよう努めました。業態の特徴を活かし「大將軍」業態は好調に推移する一方で「くいどん」業態が苦戦し、売上高は19億10百万円（同 1.3%減少）となりました。

その他部門

居酒屋（「とりかく」、「大穴」）業態は、店舗の異動はなく、当第1四半期連結会計期間末店舗数は8店舗となりました。宴会需要の回復や客単価が増加したこと等により、売上高は3億円（同 5.3%増加）となりました。

和食 旬彩処「鈴のれん」業態は、店舗の異動はなく、当第1四半期連結会計期間末店舗数は5店舗であります。屋号を和食・しゃぶしゃぶ「鈴のれん」より和食 旬彩処「鈴のれん」に変更しお値打ちな本格和食を提供してまいりました結果、売上高は1億61百万円（同 7.3%増加）となりました。

その他業態は、食肉加工卸売、からあげ専門店「からしげ」、物販（しぐれ煮、胡麻だれ類）及び不動産賃貸等があります。売上高は3億43百万円（同 3.3%減少）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月9日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,389	12,559
売掛金	2,023	1,470
商品及び製品	4	8
原材料及び貯蔵品	3,564	3,402
その他	520	693
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	19,503	18,132
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,964	8,156
土地	6,096	6,027
その他(純額)	2,190	2,264
有形固定資産合計	16,250	16,448
無形固定資産		
のれん	1,114	1,078
その他	887	834
無形固定資産合計	2,001	1,913
投資その他の資産		
差入保証金	4,014	4,002
その他	5,043	4,924
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	9,026	8,895
固定資産合計	27,278	27,257
資産合計	46,781	45,390

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,132	1,093
短期借入金	7,000	7,000
1年内返済予定の長期借入金	293	262
未払法人税等	467	115
賞与引当金	625	306
その他	3,693	4,067
流動負債合計	13,212	12,846
固定負債		
長期借入金	185	143
退職給付に係る負債	1,256	1,269
資産除去債務	1,319	1,332
その他	466	444
固定負債合計	3,227	3,189
負債合計	16,440	16,036
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,648	12,648
資本剰余金	12,467	12,467
利益剰余金	5,529	4,548
自己株式	△935	△935
株主資本合計	29,709	28,728
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	621	616
退職給付に係る調整累計額	9	9
その他の包括利益累計額合計	631	625
純資産合計	30,341	29,353
負債純資産合計	46,781	45,390

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	11,774	11,991
売上原価	3,762	3,759
売上総利益	8,011	8,231
販売費及び一般管理費	8,299	8,306
営業損失(△)	△288	△74
営業外収益		
受取利息	5	4
受取配当金	22	32
その他	6	2
営業外収益合計	33	38
営業外費用		
支払利息	6	14
その他	1	9
営業外費用合計	8	23
経常損失(△)	△262	△59
特別利益		
固定資産売却益	—	174
特別利益合計	—	174
特別損失		
固定資産除売却損	33	30
特別損失合計	33	30
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△296	84
法人税、住民税及び事業税	33	27
法人税等調整額	153	108
法人税等合計	187	135
四半期純損失(△)	△484	△51
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△484	△51

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純損失(△)	△484	△51
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	76	△5
退職給付に係る調整額	0	△0
その他の包括利益合計	76	△6
四半期包括利益	△407	△57
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△407	△57
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

当社グループの売上高は、通常の営業形態として、主力商品である「しゃぶしゃぶ」の需要が年末年始を含めた冬季に高まるため、通常、第3及び第4四半期連結会計期間の売上高は第1及び第2四半期連結会計期間の売上高と比べ高くなる傾向があり、営業利益も第3及び第4四半期連結会計期間に片寄る傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	361百万円	390百万円
のれんの償却額	35	35